

# まほろば



2025  
第246号

## 特別統括病院長就任のご挨拶



令和7年4月1日より、弘前総合医療センターの特別統括病院長を拝命いたしました袴田健一です。これまで私は、弘前大学医学部附属病院の病院長として病院運営に携わるとともに、外科（旧第二外科）の教授として、地域医療に長く関わってまいりました。このたびの重責に身の引き締まる思いであり、当センターに対する地域社会の期待をしっかりと受け止め、安心・安全で良質な医療を継続的に提供できる体制づくりに努めてまいります。

当センターは、令和4年4月に旧弘前市立病院と旧国立病院機構弘前病院が統合し、新たな地域中核病院として歩みを始めてから、早くも3年が経過しました。この間、職員一人ひとりの不断の努力と、地域の皆様からの温かいご支援のおかげで、徐々にではありますが、地域の中核医療機関としての役割を着実に果たしつつあります。

一方、医療を取り巻く環境は日々大きく変化しています。新型コロナウイルス感染症の経験を経て、医療需要の構造が大きく変化し、急速な少子高齢化、周辺地域の医療機能の再編、さらには病院経営をめぐる環境の厳しさなど、私たちが直面する課題は多岐にわたります。

こうした状況において、地域住民の皆様の命と健康を守る拠点として、特に二次救急医療体制のさらなる強化が求められており、加えて、専門性の高い医療を提供する機能も、ますます重要となっております。また、医師や看護師など医療を支える人材の育成と確保も、これからの地域医療を守るために欠かせません。

今後も、地域の皆様に信頼される医療機関であり続けるために、時代の変化に柔軟に対応しながら、地域とともに歩む医療を追求してまいります。引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 診療看護師が増えました！



去年の今頃、この広報誌で同タイトルの記事を書かせていただきました。当時は1名から3名に増えたという内容でしたが、今年もさらに増員し5名となりました。1施設に5名のJNPが在籍しているのは北海道、東北地区内では当院とほか数施設だけです。

おさらいですが診療看護師（NP：NursePractitioner）とはこれまで医師のみが行っていた診察、処置や検査の実施などを行うことができ、看護の視点と医学的知識・技術を併せ持つ存在です。

当院では2021年度から“JNP”の略称で診療看護師の採用がスタートしました。

現在は看護管理、HCU、循環器内科、消化器内科、救急科に配置され活動の幅を広げています。増員していただけたということは、チーム医療内で必要な役割であり、期待の大きさと受け取っています。当院内にとどまらず、近隣施設や他県とも連携しながら患者様のケアにつなげられればと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

診療看護師（JNP）：前田 倅平

## 看護師特定行為研修受講にあたって

4月から看護師特定行為研修が始まり3か月が経ちました。動脈血液ガス分析関連や創部ドレーン管理関連などの7区分7行為を取得できる外科系基本領域パッケージの特定行為研修で、手順書に基づいて特定行為を実施することが可能となります。私が所属する整形外科病棟においては医師が不在または多忙である時に、術後の創部ドレーンの抜去をタイムリーに行い、患者さんの早期離床に繋げることなどができると思います。また、患者さんの状態に対する判断や、必要な治療とケアを予測し看護実践能力を高めることもできると思います。特定行為研修で学んだ知識や技術をどのような場面で活かすことができるか、自分の役割を明確にしながら研修に励んでまいります。

西5階病棟：山川 美紀子

## 看護部新人研修について



今年度の看護部の入職者は、新人看護師35名、既卒看護師10名の総計45名の方々が新たに私達の仲間となりました。医療の高度化と看護のニーズが進む中、効果的な院内研修の実施は、看護の質を維持・向上させる上で重要な課題となっています。当院でも、限られた時間と、リソースの中で、どのような研修を企画・運営すればよいかを教育委員会メンバー

と協議をし、研修効果を最大限にするために様々な工夫を行っています。「ただ研修を行う」のではなく、「わかった」を「できる」に繋げるため、更に「楽しさ」のエッセンスを随所に盛りこみながら前向きに取り組めるような支援を心掛けています。

患者さんの一番近くにいるのは看護師です。一人ひとりの看護師が、笑顔でやりがいを感じながら看護を実践できるように、そして地域の皆様に愛される病院になれるよう、今後も要となる“人”を大事にしながら、人材育成に努めて参りたいと思います。

看護部教育担当看護師長：工藤 みや子

# 入学式

令和7年4月8日、本校講堂において73回生の入学式が行われました。看護学生として勉学に励むことを誓い、緊張しながらも晴れやかな表情で式典に臨みました。ご来賓の皆様、保護者の皆様に見守られ、40名の入学が認められました。

学校長 江面正幸先生の式辞では、「日々の看護はもちろん、災害派遣やコロナ感染症の派遣業務など、病院の使命を担って第一線で活躍する先輩方に負けることなく勉学に励み、本校の新しい1ページを切り開いてほしいと思います。」という言葉頂きました。看護師として働く上で、広く活躍の場を持ち多くの職種と連携しながら社会のニーズに応えられる人材に育つことが求められています。新しい教材を手に嬉しそうな学生を見て心から応援する気持ちが沸きます。今、抱いている将来への期待を持ち続けて努力していけるよう、教員一同責任をもって指導していきたいと思います。

看護学校教員 1学年担任：荒井 宇子



## 研修医だより

いつも大変お世話になっております。研修医2年目の石橋恭平です。研修期間も残りわずかとなりました。初期研修では診療科を問わず多くの先生方・スタッフの皆様にご指導いただき、心より感謝申し上げます。現場での一つ一つの経験が、自分を大きく成長させてくれました。今後も研修で学んだ姿勢を忘れず、精進してまいります。

研修医：石橋 恭平

こんにちは。研修医2年目の土岐捷人です。研修医2年目を無事に迎えられたのは頼りになる先輩方や上級医の先生方のご指導、看護師をはじめとしたコメディカルの皆様のご支援、個性豊かな同期のおかげだと考えております。元気な後輩達も入ってきて、研修医生活はますます充実してきています。最近ライブ鑑賞に精を出しており、その中でもUNIZON SQUARE GARDEN（以下ユニゾン）というバンドのライブが素晴らしかったのでご紹介させていただきます。ユニゾンは3人組のバンドで昨年20周年を迎えました。他のバンドはMCも見どころなのですが、ユニゾンはほとんどMCをせずとにかく演奏で勝負するバンドで、その演奏技術は素人の僕でもわかるくらい圧倒的で度肝を抜かれました。無骨で職人のような雰囲気も僕の好きなところ。好きな曲は『傍若のカリスマ』でこれぞロックバンドというようなアップテンポな曲調と演奏が聴いてて痺れます。音楽から力をもらうだけでなく患者さんに元気や活力を与えられる医者になれるよう日々邁進していきます。

研修医：土岐 捷人

いつもお世話になっております。研修医2年目の松丸麗奈と申します。

この度は函館出身として函館旅行のイチオシ海鮮料理屋 海光房をご紹介いたします。

大きな生簀が目印の、鮮度が売りの人気店です。メニューの豊富さもさることながら、お気に入りの海鮮を好みの調理法で味わえる自由度が最大の魅力です。私のおすすめはキンキの塩焼き。脂ののったぷりぷりの白身がたまりません。予算は多めに。ぜひご賞味ください。

研修医：松丸 麗奈



